

中国語疑問マーカにおける歴史的変化過程の再検討

杜 曉 磊

1 問題提起

- (1) 你 去 北京 吗 / 么 / 吧?
 Ni qu Beijing ma / me / ba
 あなた 行く 北京 か / ね / だろう (でしょう)
 意味: 北京に行きますか

例文 (1) の「吗 / 么 / 吧」は中国語現代文疑問マーカであり、それらは wh 疑問文に使用せず、yes-no 疑問文の文末だけに使用して疑問を表す。古文において、このような疑問マーカがどこから由来したかは、既に定説がある。吳福祥 (1997)、王力 (1980)、王娟 (2011)、羅驥 (2002) は、疑問マーカ「吗 / 么 / 吧」などは古文の「麼」に由来して、また「麼」は「無」から来たと論じていた。しかし、なぜそのような変化したのか、またどのようなルートによって変化したのかはまだ検討の余地がある。本稿はこの問題を考察したい。王力 (1980) の音韻変化説と吳福祥 (1997) などの文法変化説を基づいて、音調変化もその原因の一つであると提案したい。

2 先行研究

中国語疑問マーカの歴史的変化過程について、研究論文は主に、吳福祥 (1997)、王力 (1980)、羅驥 (2002)、伍華 (1987) などがあり、それぞれ音声変化の立場と文法変化の立場から論じた。前者で代表的なものは王力 (1980) であり、後者で代表的なものは吳福祥 (1997) である。王力 (1980) は中国語古代文字音韻変化の規則によって、「吗」などの疑問マーカは「麼」から出て、「麼」は否定詞「無」から出たと論じた。吳福祥 (1997) は文法変化の立場から、否定詞「無」から語気詞「吗」までの変化過程を論じた。以下これらを紹介しながらそれぞれ検討する。

2.1 王力 (1980) の音韻変化説

王力は『漢語史稿』第3章「語法的發展」において、古代中国語の音韻変化の特徴によって、「ma」と発音する「吗」を遡って、対応している文字は「麼」であると述べた。音韻上、「麼」は中古において、「戈韻」であり、「mua (細也)」と発音し、それから、その二番目の子音「u」が脱落して、「ma」となったとされる。

周知のように、一般的には、中国語文字は二つの部分から構成される。それらは漢字の左半分の部首と右半分の旁である。部首となるものは意味を表し、旁となる部分は発音を表す。例えば、中国語文字「湘 xiang」は川の名前である。それは、左半分の「氵」は水を表し、「川」の意味を暗示する。右半分の「相」は xiang と発音し、「湘」の発音を示唆している。

上に書いてある中国語文字構成規則から、「麼」を考えれば、「麼」は発音は「mua (細也)」から「ma」に変わったが、文字は変わらなかったのもので、その文字構成ルールに合わなくなる。従って、「麼」の書き方のほうが変わる必要がある。それで、「麼」は「吗」になった。なぜ他の文字ではなく、「吗」に変わったかという点、「吗」の左半分は口偏で、口と関係ある意味(モダリティーなど)を表し、右半分は「馬」で、「ma」と発音し、変化した「麼」の発音と合っている形になるからだ。

さらに、もっと古い時代に遡って、「麼」がどこから来たのかという点、それは音声変化の特徴によって、「無」から来たはずである。

古代中国語は、一文字には発音が二つある。それらは、読書する時の発音と会話する時の発音である。前者は文言音といい、現代語の標準語発音と同じことで、後者は白話音といい、現代語の方言と似ている。「無」は上古の発音は「miwa」で、その発音の発展過程は、文言音と白話音が合流したのではなく、別々に発展した。「無(miwa)」は文言音の方は両唇音「m」が脱落して、軽唇音(半母音)になった。その変化過程は「miua」→「miwu」→「viwu」→「vu」→「wu」である。また、白話音の方は両唇音「m」が残って、韻頭「i」がなくなって、「mua」¹になった。

以上を簡潔にいうと、王力(1980)は、歴史音韻変化の立場で、「無(miwa)」から、「麼(mua)」に、また「麼(mua)」から、「吗(ma)」に変わったと述べたということである。

2.2 吳福祥(1997)などの文法変化説

中国語の最初の文字は甲骨文字であり、獣骨に刻んで、天気などを記録していた。それは句読点がなく、ただ陳述に見える形式で yes-no 疑問文を表す。

(2) 不 雨 (『続 4. 11. 2』)

Bu yu

ない 雨

意味：雨が降らないか？

上の(2)は yes-no 疑問文であり、文中の「雨」は動詞で、前に否定「不」があつて、直訳すれば、「雨が降らないか」という意味になる。そして、yes-no 疑問文以外で、甲骨文は反復疑問文(VP-neg-VPの形)で疑問を表す(例(3))。反復疑問文は述語部分で肯定形と否定形を並べ、回答する側にそのどちらかを選ばせる疑問文である。例えば、(3)において、「雨」は肯定文であり、「不雨」は否定文である。それらを並べると、反復疑問文になり、「雨が降るか、降らないか」という意味を表す。

(3) 雨 不 雨 (『粹 670』)

Yu bu yu

雨 ない 雨

意味：雨が降るか、降らないか？

時間が立つにつれて、会話の経済性のため、反復疑問文 (VP-neg-VP) における後半の VP が削除されて、VP-neg の形で疑問を表すようになった (例文 (4))。このように、反復疑問文は VP-neg-VP から VP-neg (neg には否定詞「不」、「否」、「未」、「非」などがある) に変わった。

(4) 雨 不 (『前 3. 19. 4』)

Yu bu

雨 無い

意味：雨が降るか降らないか？

吳福祥 (1997) の考察によれば、中国語後漢時代から宋の時代まで、VP-neg は 2 種類あり、一つは否定詞は否定詞に使い、もう一つは否定詞は否定詞の用法ではなく、語気詞に変わって使われた。後者は下の例文 (5) である。

(5) 眼 耳 未 覚 惡 不? (『世説新語・賢媛』)

Yan er wei jue wu bu

目 耳 ない 感じる 異常 ない

意味：目と耳は異常があると感じないか？

なぜ (5) にある「不」は語気詞で使われたかということ、吳福祥 (1997) によれば、それらは VP-neg 式の反復疑問文であれば、文中に「未」「不」など否定や反問などの表現が入れない。既に入っているのだから、それは反復疑問文ではないのだ。しかも、文末の否定詞は既に語気詞になって、文全体は yes-no 疑問文になったということだ。言い換えれば、反復疑問文である VP-neg-VP は neg-VP-neg-VP に書き替えられないので VP-neg 式の反復疑問文は VP の前に否定詞が挿入されることができない。したがって、(5) は反復疑問文ではなく、neg-VP-neg 型の文として後者の neg はすでに語気詞になった。

それから、六朝の時代から、neg に否定の「無」² が現れ、VP-neg には 2 種類あると同じように、「VP-無」にも 2 種類があり、それぞれ否定詞の「無」と語気詞の「無」である。吳福祥 (1997) によると、(6) において、はっきりと標示された反問文³ などの非反復疑問文マーカーがないので、文末の「無」は語気詞か否定詞か分からないが、(7) は非反復疑問文であり、原因は文中に否定の反問詞「莫」があるからだ。従って、文末にある「無」は否定詞ではなく、語気詞になったのだ。

(6) 怀里 琅玕 今 在 无? (『李欣の詩』)

Huaili langgan jin zai wu

懐の中に 美しい石 今 ある 無い

意味：懐で持っている美しい石は今もあるか？

(7) 莫 便 是 传底人 无 (『祖堂集 3.098』)

Mo bian shi chuanderen wu

ではないか では である 伝える人 無い (疑問マーカー)

意味：伝える人ではないか？

それから、唐の時代の早期になって、「麼」が出てきて、非反復疑問文 (yes-no 疑問文、反問文など) の文末に使われた (例文 (8))。また、宋元明清と四つの時代になって、それは疑問文ではない文にも使えるようになった。

(8) 佛弟子 念 经 不 得 麼 (『祖堂集 5.043』)

Fodizi nian jing bu de me

仏教弟子 読む 経 無い できる か

意味：仏教弟子は経を読んではいけませんか？

まとめると、古文において、「VP-neg」には2種類あり、それぞれ反復疑問文と非反復疑問文である。前者の neg は否定詞であり、後者の neg は語気詞である。同じように、「VP+無」にも2種類があり、「無」が否定詞に使うタイプと語気詞に使うタイプである。それは同音異義を区別するために、後者は語気詞「麼」に変わった。また、いろいろな語気を表す「麼」の用法によって、それは現代語気詞「吗/么/吧」などになったということである。

しかし、なぜ否定語ではなく、語気詞のほうが変わったのか、説明が不足している。文字の歴史変化は人間のように意志があるわけではないので、用法によって変わるというより、音調が違うので、自然に変わるのではないかと思われる。

3 考察

3.1 歴史言語学の音変化説

上に書いたように、中国語疑問マーカーの歴史的変化過程について、王力 (1980) などは音韻変化の立場から論じ、吳福祥 (1997) は文法の立場からそれを論じた。文字の歴史的变化は人間のように意志があるわけではないので、用法によって変わるというより、他により自然な原因があつて、自然に変わるのではないかと思われる。文法の変化は確かに存在するが、それは語の変化の原因ではなく、変化の結果ではないかと思われる。

F. de Saussure は *Course in General Linguistics* の Part 3 Diachronic linguistics の Chapter 2 Sound changes の 4. Causes of sound change において、以下のように書いている。

Sound changes only are under consideration here, and not linguistic change in general. It is understandable that grammatical change should be affected by these factors. (ここで言語の文法変化ではなく、音変化だけについて論じている。実は、文法変化がただ其の音変化の影響による結果である。筆者訳)

以上のことから見て分かるように、歴史的に、ある単語の用法が変わったら、その前に、音の変化があったはずである。単語が音変化の影響を受けて、用法が次第に変わってくる。言い換えれば、歴史的にある言語現象が変わると、普通、口語の方は先に変化し、文語の方はついでに変わる。口語と文語はお互いに影響し、変わりつつある。例えば、蔡欣吟 (2013) は日本語の連体形準体法と準体助詞ノの使用に影響を与える要素とその使用について、以下のように書いている。

上接する活用語について、文語の活用語が連体形準体法で用いられるのに対して、口語の活用語には準体助詞ノが付きやすいことが確認できる。その理由としては、文語の活用語は終止形と連体形が異なっているため、準体助詞ノに頼ることなく、連体形準体法のままで連体形と認識でき、連体修飾と体言としての役割を果たしうるのであるのに対して、口語の活用語は終止形と連体形が同形であるため、準体助詞ノがなければ、連体形として認識されがたいという事情が推察される。そのために、口語の活用語において、準体助詞ノがつく比率が高くなっていると考えられるのである。(蔡 2013 : 201)

上を見ればわかるように、連体形と終止形の崩壊は口語から始まり、しかも、連体形準体法の代わりに、準体助詞ノの使用は文語からではなく、口語から始まった。これは中国語疑問マーカの歴史的变化過程の場合と似ている。中国語疑問マーカの歴史的变化過程の場合だと、「無」から「麼」に、「麼」から「吗」などに代わる時、否定詞のほうではなく、語気詞のほうが変わった。しかも、「無」と「麼」はすでに文末に使われたので、口語の音調が違ったから、それらは変わったのではないかと思われる。

3.2 筆者の音調変化説

中国語疑問マーカの歴史的变化過程の場合で、「無」から「麼」に、「麼」から「吗」などに変わった時、「無」と「麼」はすでに文末に使われた。

(9) 晚来 天 欲 雪, 能 饮 一杯 无? (白居易『聞劉十九』)

Wanlai tian yu xue neng yin yibei wu

夜 天気 すぐ 雪が降る いい 飲む 一杯 か

意味：夜になると、雪が降るので、(泊まって)酒一杯飲みませんか？

(10) 南斋 宿 雨 后, 仍 许 重 来 麼? (賈島『王侍御南原莊』)

Nanzhai su yu hou reng xu chong lai me

南斋 宿る 雨 後 また 許可 また 来る か

意味：南斋に雨のため、宿った後、また来ても大丈夫か？

普通、日本語でも、中国語でも、終助詞がある言語では、文の音調の担い手は文末の小辞である。文末語気詞の「無」、「麼」、「吗」などはモダリティーが異なり、音調が違う。詳しく言えば、反復疑問文文末の否定詞は通常と同じように発音し、非反復疑問文文末の語気詞が普通より声高く、長く発音する。時代が変わるにつれて、前者はそのまま残り、

後者の違った発音が別の文字に変わった。また、語気詞の「麼」が「吗」だけに変わったわけではなく、「吧」「么」などにも変わったのは、恐らく語気が違くと、文末の文字が同じであっても、発音が違うからだ。

これは、上に書いてある王力(1980)の音説とも一致している。ただし、すべての「無」が「麼」に変わったわけではなく、語気詞の「無」が「麼」に変わった。すべての「麼」が「吗」に変わったわけではなく、yes-no 疑問文の語気だけの「麼」が「吗」に変わった。同じ文字であるが、新しくなる、非反復疑問文の方、つまり、語気詞のほうの音調が変わりやすい。その文末の文字は変わった音調と合わせて、新しい文字になった。

3.3 現代文から見た場合

上の現象は現代文にも見られる。まず、中国語古代から現代まで、文末に使う疑問助詞の発音が次第に明瞭になってきた。

歴史的語気詞の変化：「無」→「麼」→「吗」「么」「吧」

現代語における発音：wu me ma me ba

発音の明瞭さと高さ：「無 wu」<「麼 me」<「吗 ma」「么 me」「吧 ba」

上に明示した現代語の発音を見て、時代が近ければ、発音はより明瞭で、より高くなる。しかも、古文でも、現代文でも、「無」「麼」「吗」「么」「吧」などは全部文末にあつて、それぞれのモダリティーが異なる。こうしてみると、時代の中で、文末の文字が変わるにつれて、文の音調が違はずである。

また、中国語現代文の yes-no 疑問文は文末の疑問助詞が異なると、音調が多少なりとも異なる。

(11) 你 去 北京 了 吗?

Ni qu Beijing le ma

あなた 行く 北京 た か

意味：北京に行きましたか?

(12) 你 去 北京 了 吧

Ni qu Beijing le ba

あなた 行く 北京 た でしょう

意味：北京に行ったでしょう?

(13) 你 去 北京 么

Ni qu Beijing me

あなた 行く 北京 ね

意味：北京に行きますね?

(11) から (13) までは、モダリティーが少し異なるが、全部 yes-no 疑問文である。(11) は一番正式な形で、上昇の口調ではっきりという。日本語の「か」と対応している。(12) の文末の疑問助詞「吧」は確認の気持ちを表し、普通、上昇より平坦の口調で言い、意味と口調から日本語の「でしょう」「だろう」と相当する。また (13) は (11) の「吗」より

平坦かやや下降の口調で軽いいい、イントネーションから日本語の「ね」と似ていて、モダリティーは確認より「吗」のほうに近い。

上の(11)から(13)までの例文から見れば、モダリティーが異なれば、音調が違う。したがって、古文において、文末の疑問助詞が同じでも、文の音調が違ふと考えられる。違ふからこそ、文末の助詞は音調によって、違ふ文字に変わった。

最後に、現代文疑問文の文末にも、語気詞ではない否定詞がある。それは古文文末の語気詞ではない否定詞の残りではないかと思われる。

(14) 你 去 北京 了 不?

Ni qu Beijing le bu

あなた 行く 北京 た ない

意味：あなたは北京に行きましたか？

(15) *你 不 去 北京 了 不?

Ni bu qu Beijing le bu

あなた ない 行く 北京 た ない

意味：あなたは北京に行かなかったですか？

例文(14)は「不」は声を低くして言い、しかも、例文(15)のように、動詞「去」の前に否定の「不」は入ってはいけない。こうしてみると、文末の「不」は語気詞ではないことが分かる。語気詞であるなら、否定文でも、肯定文でも使えるはずである。この否定詞「不」は前に述べた、語気詞ではなくて反復疑問文から残った neg であると推測できる。ほかには、「不」と同じで、「没」「没有」「否」がある。

3.4 まとめ

中国語疑問マーカーは「無」から「麼」に、また「麼」から「吗」などに変わったのは、音調が違ったからであると考えられる。また、音調変化の影響を受けて、文末の小辞の書き方が次第に異なってきたのではないかと思われる。現代文との関係から見れば、以上の論点は、歴史的文末マーカーの発音が明瞭に、高くなってきたこと、モダリティーが異なると、文の音調が異なること、現代文文末に語気詞ではない否定詞があることと三つの現象から窺える。

4 まとめと今後の課題

本稿は中国語疑問マーカーの歴史的発展過程を再検討した。文のモダリティーが異なり、音調が違うので、文末の小辞がその音調と似合う新しい文字に変わったのではないかと主張した。また、中国語疑問マーカーは「VP-neg」の neg から変わってきたことから見れば、中国語の疑問終助詞は否定詞と関係があるのではないかと思われる。その原因を明らかにするのを今後の課題として残す。

注:

- ¹ 「u」と「w」は半母音で、発音が同じであり、中国語文字音節の頭子音（声母）に書くとき、「w」で、音節の中間の母音（韻母）として書くとき、「u」になる。中国語の音節は声母、韻母から構成される。
- ² 「無」と「无」は同じ文字であり、後者は中国大陸で使われた、簡略された「無」である。
- ³ 反問文（反問句）とは、意味を強調するために、わざと言葉を裏返しにして疑問の形にする方法である。例えば、「难道～吗」など、日本語にすると、「まさか～ではあるまい」、「～とでもいうのか」などと対応している。

参考文献:

- Erlewine, M.Y. (2017) Low sentence-final particles in Mandarin Chinese and the Final-over-Final Constraint. *Journal of East Asian Linguistics* 26(1): 37-75.
- Li, Boya (2006) *Chinese Final Particles and the Syntax of the Periphery*. Doctoral Dissertation. University of Leiden.
- Paul, Waltraud (2014) Why particles are not particular: sentence-final particles in Chinese as heads of a split CP. *Studia Linguistica* 68(1): 77-115.
- Saussure, F. de (2001) *Course in General Linguistics*. Roy Harris, Trans. Foreign Language Teaching and Research Press.
- 蔡欣吟 (2013) 「江戸・東京語における連体形準体法ならびに準体助詞ノの研究」. 明治大学, 博士論文.
- 吴福祥 (1997) 从“VP-neg”式反复问句的分化谈语气词“麼”的产生. *中国语文* 1: 44-54.
- 罗骥 (2002) 北宋疑问语气词“麼”研究. *云南师范大学学报* 34(4): 103-107.
- 王力 (1980) *汉语史稿*. 济南: 山东教育出版社.
- 伍华 (1987) 论《祖堂集》中以“不, 否, 無, 麼”收尾的问句. *中山大学学报* 4: 80-89.
- 冯胜利 (1997) *汉语的韵律, 词法与句法*. 北京大学出版社.
- 赵新 (1994) 论“V—neg”式反复问句的分化演变. *湖北第二师范学院学报* 1: 79-86.